

日本史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本古代・中世史特論Ⅰ	日本古代史の研究と方法 (1)	2	堀 裕	2	金曜2限
日本古代・中世史特論Ⅱ	英語で読む日本中世文書	2	柳原 敏昭	1	月曜5限
日本近世・近代史特論Ⅰ	近世社会の研究	2	籠橋 俊光	1	金曜2限
日本近世・近代史特論Ⅱ	日本近現代史研究の現状 と課題(日中戦争・アジア・ 太平洋戦争期・戦後)	2	安達 宏昭	2	水曜2限
日本史特論Ⅰ	日本中世史料論の諸問題	2	講師(非)	1	集中講義
史料学Ⅰ	中世古文書読解入門	2	柳原 敏昭	1	火曜3限
史料学Ⅱ	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	2	水曜4限
記録遺産保全学特論	地域社会に残る歴史資料 の保全と継承を考える	2	佐藤 大介	1	集中講義
日本古代・中世史研究演 習Ⅰ	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	1	火曜3限
日本古代・中世史研究演 習Ⅱ	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	2	火曜2限
日本古代・中世史研究演 習Ⅲ	中世史の研究(1)	2	柳原 敏昭	1	月曜4限
日本古代・中世史研究演 習Ⅳ	日本中世史の研究(2)	2	柳原 敏昭	2	月曜4限
日本近世・近代史研究演 習Ⅰ	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	1	水曜5限
日本近世・近代史研究演 習Ⅱ	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	2	水曜5限
日本近世・近代史研究演 習Ⅲ	近現代史研究法(1)	2	安達 宏昭	1	火曜5限
日本近世・近代史研究演 習Ⅳ	近現代史研究法(2)	2	安達 宏昭	2	火曜5限

日本史

史料管理学Ⅰ	史料整理・保存の理論と 方法	2	籠橋 俊光	1	金曜4限 金曜5限
史料管理学Ⅱ	史料整理実習	2	籠橋 俊光	2	金曜4限 金曜5限

科目名：日本古代・中世史特論Ⅰ

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LM25201, 科目ナンバリング：LJS-HIS601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本古代史の研究と方法（1）

2・授業の目的と概要：開講時に、講義担当者が、もっとも関心を持つ日本古代史に関する研究テーマを取り上げて講義を行う。本年度は、「辺境の歴史」を取り上げる予定である。検討は日本を中心に行うが、朝鮮史・中国史との比較研究もすすめたい。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、研究とはどのようなプロセスで形成されるのかを学ぶ機会としたい。

3. 学習の到達目標：日本古代史に関する講義を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を中心に、リアルタイムのオンライン授業も開く

1. どのような関心のもとに講義を行うか説明をする

2. 古代史講義 1

3. 古代史講義 2

4. 古代史講義 3

5. 古代史講義 4

6. 古代史講義 5

7. 古代史講義 6

8. 古代史講義 7

9. 古代史講義 8

10. 古代史講義 9

11. 古代史講義 10

12. 古代史講義 11

13. 古代史講義 12

14. 古代史講義 13

15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（100％）

6. 教科書および参考書：講義中に提示する

7. 授業時間外学習：講義中にあげた参考論文や関連する史料を各自で読むこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本古代・中世史特論Ⅱ

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭、DAMICO JOHN CLARK

コード：LM11501, **科目ナンバリング：**LJS-HIS602J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語で読む日本中世文書

2・授業の目的と概要： 鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。

3. 学習の到達目標： (1) 日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。
(2) 史料用語を概念化することに習熟する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみ

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

5. 成績評価方法：リポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[40%]

6. 教科書および参考書：テキストは授業中に配付する。参考書は、ジェフリー・マス『The Kamakura Bakufu: A Study in Documents』（スタンフォード大学出版会）。

7. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

日本史演習「英語で読む日本中世文書」(1)(2)は連続履修すること。

科目名：日本近世・近代史特論Ⅰ

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM15201, **科目ナンバリング：**LJS-HIS603J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世社会の研究

2・授業の目的と概要：日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。 必要に応じ、学外の見学なども実施する。

3. 学習の到達目標：(1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
(2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論(1)
3. 受講者による報告と討論(2)
4. 受講者による報告と討論(3)
5. 受講者による報告と討論(4)
6. 受講者による報告と討論(5)
7. 受講者による報告と討論(6)
8. 受講者による報告と討論(7)
9. 受講者による報告と討論(8)
10. 受講者による報告と討論(9)
11. 受講者による報告と討論(10)
12. 受講者による報告と討論(11)
13. 受講者による報告と討論(12)
14. 受講者による報告と討論(13)
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

6. 教科書および参考書：講義中に指示する。

7. 授業時間外学習：予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本近世・近代史特論Ⅱ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LM23204, **科目ナンバリング：**LJS-HIS604J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近現代史研究の現状と課題（日中戦争・アジア・太平洋戦争期・戦後体制）

2・授業の目的と概要：日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、岩波講座『日本歴史』シリーズ近現代編を読んでいく。今年は、主に昭和戦前・戦後期を対象とする第 17～19 巻（近現代 3～5）を中心に論文を読む。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する箇所の要旨や内容の特徴を研究史と照らし合わせて報告し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 日本近現代史に関する最近の講座論文を読解し、内容を理解できるようになる。
(2) 講座論文の内容要旨を発表し、研究史の中に位置づけて、討論することができるようになる。
(3) 最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回：ガイダンスと日本近現代史研究の特徴
- 第 2 回：日本近現代史研究の方法
- 第 3 回：「満州事変・日中戦争の勃発と立憲政治」についての報告と討論
- 第 4 回：「大政翼賛会の成立から対英米開戦まで」についての報告と討論
- 第 5 回：「戦局の展開と東条内閣」についての報告と討論
- 第 6 回：「総力戦の遂行と日本社会の変容」についての報告と討論
- 第 7 回：「戦時統制経済」についての報告と討論
- 第 8 回：「大東亜共栄圏」論についての報告と討論
- 第 9 回：「戦時・戦後農村の変容」についての報告と討論
- 第 10 回：「戦争と大衆文化」についての報告と討論
- 第 11 回：「象徴天皇制の形成と展開」についての報告と討論
- 第 12 回：「サンフランシスコ講和条約と日本の戦後処理」についての報告と討論
- 第 13 回：昭和戦前戦中期に関する論文 1 についての報告と討論
- 第 14 回：昭和戦前戦中期に関する論文 2 についての報告と討論
- 第 15 回：まとめと総合討論

5. 成績評価方法：(○) レポート [60%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（報告の内容、討論への取り組みなど）[20%]

6. 教科書および参考書：(教科書) 岩波講座『日本歴史』第 18 巻（近現代 4）、岩波書店、2014 年。(参考論文) 適宜、配布する。

7. 授業時間外学習：上記の教科書や参考論文の指定された箇所を、事前に読んで、議論できるようにしておく。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50 要予約

科目名：日本史特論Ⅰ

曜日・講時：集中講義

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：講師（非）

コード：LM98815, 科目ナンバリング：LJS-HIS605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世史料論の諸問題

2・授業の目的と概要：日本中世の文書史料を中心とした史料論的研究の一端について講義する。近年の研究動向をふまえて、文書の原本がモノとして帯びる多様な情報の抽出と歴史的解釈を実践するとともに、中世文書の実例に即した日欧比較についても講じる。これらを通じて、日本中世文書の史料的特質について理解を深めるとともに、グローバルな視点に立った文書史料の分析方法を習得する。

3. 学習の到達目標：1. 日本中世文書の史料的特質について理解する。
2. 史料分析の具体的方法を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 史料類型
3. 文書史料論の研究動向（1）
4. 文書史料論の研究動向（2）
5. 生成と機能（1）
6. 生成と機能（2）
7. 保管の諸形態
8. 機能の遷移
9. 廃棄と再利用
10. 階層性
11. 身体性
12. 地域性
13. 比較文書論
14. 情報解析の実践（史料原本の見学）
15. .

原則として対面 . ま と め

5. 成績評価方法：レポート [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度） [20%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：授業中に紹介される研究論文や学術書を各自で検討する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：史科学 I

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM12301, **科目ナンバリング：**LJS-HIS607J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世古文書読解入門

2・授業の目的と概要： 古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開ひいてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。

3. 学習の到達目標：(1) 中世の原文書を読解できるようになる。
(2) 中世古文書学の基礎知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面のみ

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 1 0) 室町幕府文書 命令の下達・施行
- 1 1) 軍事関係文書
- 1 2) 戦国大名文書①
- 1 3) 戦国大名文書②
- 1 4) 譲状、起請文など
- 1 5) 授業のまとめと試験

5. 成績評価方法：筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度）[20%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

科目名：史料学Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM23402, **科目ナンバリング：**LJS-HIS608J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世古文書読解

2・授業の目的と概要：古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

3. 学習の到達目標：(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2)近世古文書の読解能力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
10. 町方・村方文書 (1) 定
11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
15. 講義のまとめ

5. 成績評価方法：出席[20%]・確認テスト[80%]

6. 教科書および参考書：随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

7. 授業時間外学習：予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解しておく。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：記録遺産保全学特論

曜日・講時：集中講義

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：佐藤 大介

コード：LM98816, 科目ナンバリング：LSS-HIS630J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域社会に残る歴史資料の保全と継承を考える

2・授業の目的と概要：この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践の現状について、実地に活動している方々に直接お話を聞きつつ学びます。特に、日本で頻発している東日本大震災後の歴史資料レスキュー活動や、目下大きな課題になっている、地域社会に膨大に残されている古文書、民具その他の歴史資料をどのように守っていくのかについて討論などを通じて、課題の所在を認識することを目的とします。

3. 学習の到達目標：・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。

・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1日 危機に瀕する地域の史料

1 ガイダンス

2 講義 「歴史資料」とは

3 講義 地域の歴史資料の置かれた現状

第2日 「1.17」の経験、「3. 11」を経て一大災害時の史料レスキュー

4 講義 阪神・淡路大震災での歴史資料レスキュー

5 講義 東日本大震災での歴史資料レスキュー

6 質疑応答

第3日 福島県浜通り地方での史料レスキュー

4 講義 原発被災地での活動①

5 講義 原発被災地での活動②

6 質疑応答

第4日 歴史資料を通じた地域づくり

10 講義 史料を通じて地域と向き合う①

11 講義 史料を通じて地域と向き合う②

12 質疑応答

第5日 人・コミュニティへの支援としての歴史資料保全

13 講義 史料保全の可能性①

14 講義 史料保全の可能性②

15 質疑応答

*各回の講義に、外部講師を招聘する予定である。

*上記は昨年度ベースのものであり、講義のより詳細な内容については、日程の確定および履修登録完了時に、受講予定者に提示する予定である。

5. 成績評価方法：・平常点（出席、討論への参加）（40パーセント）

・レポート（60パーセント） *日本語のみとします。

6. 教科書および参考書：・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011年）

・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012年）

・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）

ほか、講義中指示する。

7. 授業時間外学習：・歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、現在日本の31組織によって実施されている。それらに参加し、交流を深めることが、本講義の内容を、真に体得するために有用である。

・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

- ・講義は日本語で行います。
- ・講義の内容に、自然災害などの被災状況の紹介、写真や記録などの資料が含まれます。それらの内容を目にする・読むなどのことに不安がある受講者は、あらかじめ申し出てください。

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅰ

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LM12305, **科目ナンバリング：**LJS-HIS609J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2・授業の目的と概要：史料を内容によって分類するならば、歴史書と法律、日記（古記録）、古文書、物語、聖教、歌、帳簿、記念碑などに分けることができる。このなかでも法律は、国家や社会、生活を考えるために重要な史料である。日本古代史においては、律（刑法）・令（行政法）・格（単行法令）・式（施行細則）が著名である。なかでも、8 世紀に編纂された養老令は、現在およそ全貌を知ることができる基本法典である。この養老令の各条文について、法律家（明法家）の考えをまとめた 9 世紀の私撰注釈書が『令集解』であった。本演習では、『令集解』に記載された令

3. 学習の到達目標：日本古代の法典である令に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

対面授業とリアルタイム型オンライン授業の併用

1. ガイダンス『令集解』とは何か。講読のすすめかた。

2. 『令集解』を読む（1）

3. 『令集解』を読む（2）

4. 『令集解』を読む（3）

5. 『令集解』を読む（4）

6. 『令集解』を読む（5）

7. 『令集解』を読む（6）

8. 『令集解』を読む（7）

9. 『令集解』を読む（8）

10. 『令集解』を読む（9）

11. 『令集解』を読む（10）

12. 『令集解』を読む（11）

13. 『令集解』を読む（12）

14. 『令集解』を読む（13）

15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（50％）報告および討論などでの授業参加（50％）

6. 教科書および参考書：テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LM22202, **科目ナンバリング：**LJS-HIS610J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2・授業の目的と概要：摂関期以降の研究を行うためには、平安時代の男性貴族が書いた古記録（日記）を読む必要がある。現在、藤原道長の書いた『御堂関白記』や、藤原行成の書いた『権記』など多くの古記録が残されており、私たちはそれらを通して、藤原道長が宫廷社会でどのような振る舞いをしていたのか、平安京での人々の暮らしはどのようなものであったのか、あるいは当時の地方社会や宋・高麗との関係を知ることができる。古記録のなかでも、藤原実資の書いた『小右記』は、藤原道長とはやや距離をとった立場で、詳細な記録を残しており、平安時代史研究にとっては必

3. 学習の到達目標：日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、その読解能力を高める。古記録の内容から、平安時代の歴史像を構築する力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 『小右記』の概要と講読の方法を説明する。
2. 『小右記』を読む（1）
3. 『小右記』を読む（2）
4. 『小右記』を読む（3）
5. 『小右記』を読む（4）
6. 『小右記』を読む（5）
7. 『小右記』を読む（6）
8. 『小右記』を読む（7）
9. 『小右記』を読む（8）
10. 『小右記』を読む（9）
11. 『小右記』を読む（10）
12. 『小右記』を読む（11）
13. 『小右記』を読む（12）
14. 『小右記』を読む（13）
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（50%）・授業での報告と討論への参加（50%）

6. 教科書および参考書：テキスト 『大日本古記録 小右記』1～11（岩波書店）

7. 授業時間外学習：事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅲ

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM11403, **科目ナンバリング：**LJS-HIS611J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：室町時代後期の政治と社会(1)

2・授業の目的と概要： この授業では、記録史料を精読することを通じて、室町時代後期の政治や社会について検討を加える。主な史料は、『蔭涼軒日録』『後法興院記』『親長卿記』『大乘院寺社雑事記』。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。受講者には、日本史演習「鎌倉時代の法と社会」より、一層高度な力量が求められる（大学院生レベルを想定）。

3. 学習の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2)報告・討論の方法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 1 0) 学生による報告と討論
 - 1 1) 学生による報告と討論
 - 1 2) 学生による報告と討論
 - 1 3) 学生による報告と討論
 - 1 4) 学生による報告と討論
 - 1 5) 授業のまとめ
- 原則として対面

5. 成績評価方法：レポート [4 0 %]・出席 [2 0 %]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[4 0 %]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

日本史演習「室町時代後期の政治と社会(1)(2)」は連続履修すること。

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅳ

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM21401, **科目ナンバリング：**LJS-HIS612J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：室町時代後期の政治と社会 (2)

2・授業の目的と概要：「室町時代後期の政治と社会」(1)の続講。

3. 学習の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2)報告・討論の方法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
- 原則として対面

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[40%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

日本史演習「室町時代後期の政治と社会」(1)(2)は連続履修すること。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅰ

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM13506, **科目ナンバリング：**LJS-HIS613J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法（1）

2・授業の目的と概要：受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。

3. 学習の到達目標：(1) 日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論（1）
3. 受講者による報告と討論（2）
4. 受講者による報告と討論（3）
5. 受講者による報告と討論（4）
6. 受講者による報告と討論（5）
7. 受講者による報告と討論（6）
8. 受講者による報告と討論（7）
9. 受講者による報告と討論（8）
10. 受講者による報告と討論（9）
11. 受講者による報告と討論（10）
12. 受講者による報告と討論（11）
13. 受講者による報告と討論（12）
14. 受講者による報告と討論（13）
15. 受講者による報告と討論（14）

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。また、大学院生には学部生の指導的な役割を積極的に担うことを期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM23505, **科目ナンバリング：**LJS-HIS614J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法（2）

2・授業の目的と概要：「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

3. 学習の到達目標：(1) 日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。
(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告・討論(1)
3. 受講者による報告・討論(2)
4. 受講者による報告・討論(3)
5. 受講者による報告・討論(4)
6. 受講者による報告・討論(5)
7. 受講者による報告・討論(6)
8. 受講者による報告・討論(7)
9. 受講者による報告・討論(8)
10. 受講者による報告・討論(9)
11. 受講者による報告・討論(10)
12. 受講者による報告・討論(11)
13. 受講者による報告・討論(12)
14. 受講者による報告・討論(13)
15. 受講者による報告・討論(14)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。また、大学院生には学部生の指導的な役割を積極的に担うことを期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅲ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LM12504, **科目ナンバリング：**LJS-HIS615J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (1)

2・授業の目的と概要：近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。

3. 学習の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義
2. 受講者の研究報告と討論 (1)
3. 受講者の研究報告と討論 (2)
4. 受講者の研究報告と討論 (3)
5. 受講者の研究報告と討論 (4)
6. 受講者の研究報告と討論 (5)
7. 受講者の研究報告と討論 (6)
8. 受講者の研究報告と討論 (7)
9. 受講者の研究報告と討論 (8)
10. 受講者の研究報告と討論 (9)
11. 受講者の研究報告と討論 (10)
12. 受講者の研究報告と討論 (11)
13. 受講者の研究報告と討論 (12)
14. 受講者の研究報告と討論 (13)
15. 受講者の研究報告と討論 (14)

5. 成績評価方法：() 筆記試験 [%]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅳ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LM22504, **科目ナンバリング：**LJS-HIS616J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (2)

2・授業の目的と概要：日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

5. 成績評価方法：() 筆記試験 [%]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること

科目名：史料管理学Ⅰ

曜日・講時：金曜 4 限、金曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM15402, **科目ナンバリング：**LJS-HIS631J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2・授業の目的と概要：歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問であるが、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。モノとして伝来してきた史料を、歴史学の素材として、あるいは文字・画像の情報としてだけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料＝アーカイブズの特質や史料群の構造・伝来などを深く理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基

3. 学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施するが、講義形式の授業のみ場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論 (1)
5. アーカイブズの理論 (2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

5. 成績評価方法：出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、必ず史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：史料管理学Ⅱ

曜日・講時：金曜 4 限、金曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM25403, **科目ナンバリング：**LJS-HIS632J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理実習

2・授業の目的と概要：実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁

3. 学習の到達目標：実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス
2. 史料整理実習 (1)
3. 史料整理実習 (2)
4. 史料整理実習 (3)
5. 史料整理実習 (4)
6. 史料整理実習 (5)
7. 史料整理実習 (6)
8. 史料整理実習 (7)
9. 史料整理実習 (8)
10. 史料整理実習 (9)
11. 史料整理実習 (10)
12. 史料整理実習 (11)
13. 史料整理実習 (12)
14. 史料整理実習 (13)
15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

5. 成績評価方法：出席[30%]・受講態度[70%]

6. 教科書および参考書：各自古文書読解用辞典類を持参すること。

7. 授業時間外学習：前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

- ☐
☐

9. その他：

必ず史料管理学Ⅰ「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。また、受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割を強く期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)